

1 単元名 きょう土のはってんにつくす

2 目標

- 地域の発展に尽くした先人の働きに関心を持ち、意欲的に調べ、先人の努力によって発展してきた地域に対する誇りと愛情をもつ。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- 地域の発展には、先人の働きや苦心があったことを考え、適切に表現することができる。
(社会的な思考・判断・表現)
- 地域の発展に尽くした先人の働きや苦心について考えるのに必要な情報を、年表やその他の資料から集め、適切に読み取ることができる。
(観察・資料活用の技能)
- 先人の働きや苦心を理解できるとともに、先人の働きや苦心によって地域が発展してきたことを理解できる。
(社会的事象についての知識・理解)

3 単元について

(1) 教材について (小中一貫教育の視点)

本単元は、小学校学習指導要領解説社会編(平成20年8月)「(5)ウ 地域の発展に尽くした先人の具体的事例」の内容を受け、地域の発展に尽くした先人の働きや苦心を考え、地域社会に対する誇りと愛情を育てるようにすることをねらいとしている。児童は、3年生において、「古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子」や「地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事」について学習してきた。こうした過去の生活における人々の知恵や願いについての学習を通して、地域の伝統や文化を受け継いできた人々の生き方に触れ、地域社会に対する誇りと愛情が児童に少しずつ育まれてきた。これを受け、4年生では、地域の発展に尽くした先人の働きや苦心に触れ、地域社会に対する誇りと愛情を一層育んでいく。本単元の学習は、5年生の「国土に対する愛情を育てる」ことや第6学年の「我が国の歴史や伝統を大切にし、国を愛する心情を育てる」ことにつながっていく。そして、7年生以降の学習で「我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め」ていくことにつながっていく。児童にとって身近な地域学習からいづれ国や世界へと視点が広がっていくことを見通して、基盤となる身近な地域社会への誇りと愛情を丁寧に育んでいきたい。

(2) 児童の実態

本学級における「思考力、判断力、表現力等」に関する実態調査(平成*年*月*日実施、第4学年*組*人)では、「日本の電気の発電の仕方には、どのような課題があるでしょう。」という学習課題を設定し3つの資料を提示した。その結果、資料1から分かるように、資料から読み取った情報だけを書いてしまうなど、資料から読み取った情報を基にして課題を書くことができない児童が*人、何も書くことができない児童が*人いた。一方、資料から読み取った情報を基にして課題を書くことができた児童は*人であった。そのうち資料から読み取った情報を根拠にして考えを書いた児童は*人で、根拠に加え理由も述べて自分の考えを書くことができた児童は*人であった。ここから、課題について書くことができた児童も、根拠や理由をはっきりと示して自分の考えを書くことが十分でないことが分かった。これらのことから、本学級の児童は、根拠や理由を示しながら考えを表現する力が不足していることが分かった。

資料1 実態調査(平成*年*月*日、調査人数*人)

設問 日本の電気の発電の仕方には、どのような課題があるでしょう	
資料から読み取った情報を基にして課題を書くことができた	*人
資料から読み取った情報を基にして課題を書くことができなかった	*人
何も書くことができなかった	*人

資料2 課題を書くことのできた児童の記述内容

資料から読み取った情報と情報をつないで課題を書いた	*人
資料から分かったことを基にして根拠を挙げずに考えを書いた	*人
資料から読み取った情報を根拠にして考えを書いた	*人
資料から読み取った情報を根拠に理由を示して考えを書いた	*人

(3) 指導にあたって

上記のような実態を踏まえ、本単元では、根拠や理由を可視化する思考ツールを用いた「総合」と「予想」の学習活動を設定する。まず、児童が資料を読み取り、そこから出た疑問や気付きを基に「どのようにして土浦を水害の起こりにくい町にしたのだろう」という単元の学習課題を設定し、自分なりの予想を立て、学習計画を作成する。次に、学習計画に沿って課題について調べていく際、主な思考場面として先人の人物像を「総合」して考える場面と、先人の働きを「予想」する場面を設ける。その際、根拠や理由を可視化する「思考ツール」を用いて、根拠や理由をはっきりとさせながら考えることができるようにする。これらの学習活動を通して、根拠や理由を示しながら考えを表現する力を育てたい。

4 学習計画と評価計画 (13時間扱い)

時	学習活動・内容	評価の観点				評価の観点・方法
		関心	思考	技能	知識	
1 2	つ か む 昔と今の土浦市の写真を比較し、学習課題を作り、予想したり、学習計画を立てたりする。	◎	○			昔と今の土浦市の写真を比較し、学習課題を作り、予想や学習計画をワークシートに記入することができる。 (ワークシート)
3	水害が多かった頃の土浦市の様子や、水害の原因について、資料から読み取り、当時の人々の願いに気づく。			◎	○	水害が多かった頃の土浦市の様子や、水害の原因について、資料から適切に読み取ることができる。 (ワークシート・観察)
④ 5	ら ・ べ 5 る 水害を起こりにくくした色川三郎兵衛について年表から読み取り、考え方や思いなどの人物像をグループで考える。		◎	○		年表から読み取った情報を基に根拠や理由を示しながら、色川三郎兵衛の考え方や思いなどの人物像を総合してワークシートに記入することができる。 (ワークシート・観察)
⑥ 7	・ 7 色川三郎兵衛がどのようにして土浦を水害の起こりにくい町にしたのか今まで学習したことや資料を基に根拠や理由を示しながら予想を立て話し合う。		◎	○		今まで学習したことや資料を基に根拠や理由を示しながら色川三郎兵衛の働きについて予想を立て、話し合うことを通して、先人の働きや苦心について考えることができる。 (ワークシート・発表)
8	ま と め る 色川三郎兵衛がどのようにして土浦を水害の起こりにくい町にしたのかについて、資料から読み取り、地域の発展に尽くした色川三郎兵衛の働きや苦心についてまとめる。			○	◎	色川三郎兵衛がどのようにして土浦を水害の起こりにくい町にしたのか、資料から読み取り、これまでの学習を踏まえて色川三郎兵衛の働きや苦心についてワークシートにまとめることができる。 (ワークシート)
9	ふ か 水害の起こりにくい土浦になるには、色川三郎兵衛だけでなく、様々な人の働きがあったことに資料から気づき、新たな学習課題をもつ。	◎		○		水害の起こりにくい土浦になるには、色川三郎兵衛だけでなく、様々な人の働きがあったことに資料から気づき、今後の先人調べの学習に意欲をもつことができる。 (観察・ふりかえり)
10 11 12	め る 12 興味をもった茨城県の先人について調べ、新聞にまとめる。		○	◎		興味をもった茨城県の先人について資料を活用して調べ、先人の働きや苦心を新聞にまとめることができる。 (新聞)
13	新聞をグループで読み合っ て、様々な先人の働きや苦心によって今の茨城県があることを理解する。	○			◎	様々な先人の働きや苦心によって今の茨城県があることを理解し、ふりかえりに記入することができる。 (ふりかえり・発表)

5 第4時の展開

(1) 目標

色川三郎兵衛の業績を調べる活動を通して、色川三郎兵衛がどのような人物であったかを考えることができる。

(2) 展開 (思考ツールを用いた「総合」の学習活動)

学習活動及び内容	指導支援の留意点と評価 (◎支援 ○留意点)
<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>色川三郎兵衛はどのような人物なのだろう。</p> </div> <p>2 活動の見通しをもつ。</p> <p>(1) 年表から色川三郎兵衛がどのようなことをしてきたのかを読み取る。</p> <p>(2) 年表から読み取った情報のうち、色川三郎兵衛の考え方や生き方が表れていそうな情報を付箋紙に書き出す。</p> <p>(3) 付箋紙に書き出した情報を根拠に、色川三郎兵衛の考え方や生き方をワークシートに記入する。</p> <p>3 グループで色川三郎兵衛の人物像を総合して考える。グループで一人一人が付箋紙に書き出した出来事と、そこから考えられる色川三郎兵衛の考え方や生き方を発表し合う。</p> <p>(1) 「ボックスチャート」に付箋紙をはったり、書き込みをしたりしながら、グループの意見を整理し、人物像を総合して考える。</p> <p>(2) グループで考えた人物像をワークシートに記入する。</p> <p>4 学習を振り返り、今後の見通しをもつ。</p>	<p>○色川三郎兵衛の写真を提示して興味をもたせ、本時は「色川三郎兵衛はどのような人物なのだろう」について考えていくことを伝え、学習に対する意欲付けをする。</p> <p>◎全体で年表を読み取り、難しい事柄については教師が解説し、色川三郎兵衛のしてきたことを児童がイメージできるようにする。</p> <p>◎学習の進め方が分かるように、年表から1つの出来事を例に取り上げ、そこから色川三郎兵衛の考え方や生き方を全体で考えさせる。</p> <p>◎考え方や生き方を書くことが難しい児童には情報を付箋紙に書き、似ている情報を近くに貼ってみるように助言する。</p> <p>○ボックスチャートの四角の周りに、同じ情報は重ねて貼り、似ている情報は近くに貼るよう指示する。そこから考えられる色川三郎兵衛の考え方や生き方をペンで書きこむよう伝える。</p> <p>○書き込んだ意見を総合すると、色川三郎兵衛はどのような人物と言えるのかを、ボックス中央の四角の中に記入するよう伝える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>㊦ 年表から読み取った情報を基に根拠や理由を示しながら、色川三郎兵衛の考え方や思いなどの人物像を総合してワークシートに記入することができる。 (ワークシート・観察)</p> </div> <p>◎年表から読み取った情報を根拠や理由にして人物像を総合して考えることができたことを称賛し、次時は意見を全体で交流し合うことを伝え、次時の学習へ意欲をもたせるようにする。</p>

6 第6時の展開

(1) 目標

色川三郎兵衛の業績が土浦を水害の起こりにくい町に変えるためにどのような働きがあったかを考えることができる。

(2) 展開（思考ツールを用いた「予想」の学習活動）

学習活動及び内容	指導支援の留意点と評価（◎支援 ○留意点）
<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>色川三郎兵衛はどのようにして土浦市を水害の起こりにくい町にしたのだろう。</p> </div> <p>2 活動の見通しをもつ。</p> <p>(1) 水害を防ぐ方法を、資料から読み取る。</p> <p>(2) 堤防を築く上での問題点を整理する。</p> <p>①金銭的な問題</p> <p>②反対する住民の問題</p> <p>3 理由を挙げて予想を立てる。</p> <p>(1) 色川三郎兵衛が堤防を築いた可能性はどのくらいだと考えるか、クラゲチャートの頭の部分に色を塗って自分の意見を表す。</p> <p>(2) クラゲチャートの足の部分に理由を記入する。</p> <p>(3) ペアで意見を交流する。</p> <p>4 スケールチャートに自分の予想した考えを表す。</p> <p>5 学習を振り返り、今後の見通しをもつ。</p>	<p>◎前時に学習した色川三郎兵衛の人物像を振り返らせ、本時はいよいよ単元の学習課題である「どのようにして土浦を水害の起こりにくい町にしたのか」について考えていくことを伝え、学習に対する意欲付けをする。</p> <p>○色川三郎兵衛の祖父の話から、水害から町を守るには「霞ヶ浦沿岸に堤防を築いて逆水を防ぐこと」という方法が考えられることを押さえる。</p> <p>◎水害を防ぐための方法がどの児童にもイメージしやすいように、地図を活用する。</p> <p>◎可能性を考えるのが難しい児童には、先に足の部分に本時で押さえた問題点やこれまでに学習したことを、書き出してみるよう助言する。</p> <p>○本時に押さえた問題点やこれまでに学習したことから理由を考えるよう伝える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>㊦ 今まで学習したことや資料を基に根拠や理由を示しながら色川三郎兵衛の働きについて予想を立て、先人の働きや苦心について考えることができる。</p> <p style="text-align: right;">(ワークシート)</p> </div> <p>◎ペアで交流することが難しい児童には、教師が個別に声をかける。</p> <p>○色川三郎兵衛が堤防を築いた可能性は、0～100%の割合のどのあたりだと考えるか、ネームプレートを貼るよう伝える。</p> <p>◎割合は未習事項なので、大体の位置に貼ってよいことを伝える。</p> <p>◎根拠や理由を挙げて自分の考えを表すことができたことを称賛し、次時は理由を挙げて意見を全体で交流し合うことを伝え、次時の学習へ意欲をもたせるようにする。</p>